

急いで馬小屋へ

女性牧師部長 古川 恵子



「そして急いで行って、マリアとヨセフと、飼葉桶に寝ているみどりごを探し当てた。」

ルカの福音書二章16節

クリスマスおめでとうございます。人目に着かない馬小屋で誰にも知られずに飼葉桶に寝かせられたイエス様。そして、人目に着かない羊飼いに主の栄光が現れました。急いでイエス様を探し、見聞きしたことがすべて御使いのとおりだったので羊飼いは神をあがめ讃美しながら帰っていききました。人目に着かない人々に寄り添うことができるイエス様の在り方を象徴しているように思います。

コロナ禍の約2年間、人目に着かない女性が苦しみ自ら命を絶つ人が大幅に増加しました。その背景には感染拡大による失職や収入減があります。非正規雇用の7割は女性が占めています。このように苦しむすべての人々が教会の門を叩くことができますように切に祈ります。

クリスマスの恵みは人目に着かない馬小屋からすべての人に届く光です。暗い場所であればあるほど光は明るく輝きます。一方、暗い心から明るい場所を見るとその暗さは倍増します。失望、落胆、孤独が深まります。私たちは、そのような方々と一緒に急いで馬小屋に走って行きたいです。そこには、生まれたばかりのイエス様が飼葉桶に寝ておられます。イエス様の小さな、温かい、柔らかな手に、30年後十字架の釘が打ちつけられます。十字架を全うされる、その一点のた

めにイエス様は誕生されました。

私たちの家族の中に、近所の方々の中に、友人の中に、人目に着かず苦しんでいる人がいます。悩み、孤独の中で深い闇の中に落ちそうになっている人がいます。イエス様は悩み、苦しむ、一人ひとりの救いのため、その一点のために人目に着かない馬小屋で誕生され飼葉桶に寝かされました。この一点に集中するクリスマスでありたいと心から願います。

目の前には難しい問題・課題が山積みです。しかし、クリスマスの期間、それらを一度脇に置いてこの一点に心を合わせて一人の人の救いを求めたいと願います。そして、この一点に集中する時に、クリスマスの恵みは新たな光となって私たちの心を照らします。しかし、コロナ禍で思うような活動ができません。羊飼いたちは、急いで馬小屋に行ったように、まず、自らが人目に着かない馬小屋に急いで行きたいと思います。それは、後ろの戸を閉めた祈りの場所です。人目に着かない場所です。「あなたが祈るときは、家の奥の自分の部屋に入りなさい。そして戸を閉めて、隠れたところにおられるあなたの父に祈りなさい。そうすれば、隠れたところで見ておられるあなたの父が、あなたに報いてくださいます。」

今、心に思う一人の救いのためにお祈りしたいと思います。祈りの部屋から出てくると、見聞きしたことがすべて御使いのとおりだったので神をあがめ讃美した羊飼いの喜びをきくと味わうことができます。

目次

- 急いで馬小屋へ……古川恵子……1
- 思い巡らし、神学院同窓会セミナー・総会報告……2
- 教団運営委員会から、牧師研修会、オンラインの学び……3
- 海外トピックス、国内教会局コラム、読書のひろば……4
- 西日本ブロック近況と祈りの課題、燭台……5
- 広げた翼……6～8
- 聖宣神学院報……9～10
- 教育局・信徒局……11
- 公報、消息……12

Immanuel

クリスマスの 思い巡し

何を探し求めていますか？



ウェスレアン宣教師
ロビン・ホワイト

記憶にはないのですが、まだ小さい時に友達とサンタが本当にいるかどうか言い合っているのを母が聞いていました。母によると、私はケンカ腰でサンタはいると言い張り、こう言ったそうです。「サンタは本当にいるよ。だって、うちの親だったらこんなたくさんのプレゼント、絶対買えないもん！」私がサンタを強く信じていたのか、それとも両親の家計状況を過小評価していたのか、そのどちらを示しているのかは分かりませんが、残念ながら私たちがイエス様をこの話のように過小評価する傾向があります。キリストにあつてどれだけ私たちが豊かであるのを忘れていくのです。しかし現実には、イエス様を知ること、この世界が差し出す全てのものよりも遙かに価値があるのです。クリスマスはこれを出す絶好の機会です。ところで今、あなたは何かを探し求めているでしょうか？

東方の博士は、私たちにとって良いお手本になります。彼らは遙か遠い東方からイエス様を探し求めて旅をし、ついにイエス様を見つけました。しかし、ここには博士たち以外にも聖誕のニュースに回答をした人々が描かれています。まずヘロデ王です。彼はイエス様を殺してしまおうと考えたのです。ヘロデは王でしたから、「ユダヤ人の王」が生まれたと聞けば心穏やかではいられなかったことでしょう。彼の応答は恐れ、嫉妬、憎しみでした。現代の人々の中にもイエス様についてヘロデと同じような心持ちで受け止める人がいます。もしイエス様に従ったらどうなるのか、何を犠牲にしなければならないのかと恐れるのです。また祭司たちも違った応答をしました。彼らは博士たちがイエス様を見つけた手助けをしています。しかし長く待ち望んでいた約束の救い主が来られたというのにまったく関心を示さないのです。彼らのように、私たちの生活がイエスと出逢うことを阻んでしまうことがあります。多くの知識を得ても、イエス様ご自身に出逢っていないということがあり得るのです。博士たちはイエス様を礼拝するという応答によって最高のささげものをしました。実際には博士こそがより素晴らしい贈り物を受け取ったのです。イエス様と出逢うことができたという恵みです。私たちもイエス様に出逢えるのです。いま何を探し求めていますか？

聖宣神学院同窓会セミナー／同窓会総会

オンラインによる開催

講師に石田学先生を迎え 時代を見つめる機会に

同窓会前副会長 蔦田直毅

皆様の貴いお祈りにより、オンラインでの開催となりました同窓会セミナーは無事に、そして多くの感謝の内に終わりました。登録もオンラインということことで、慣れおられない方々にはご不便をおかけしました。ZoomとYoutubeによる配信でしたが、ご夫婦で一台という方もあり、正確ではありませんが100名を超える参加となりました。集まる時には一人ひとりにはお会いできないこともありましたが、新しい同窓生方のお顔を拝見することもでき、オンラインならではの特権でした。今回、当初はお二人の講師をお招きする予定でしたが、コロナ禍のためにオンラインとなり、会期も一日に短縮したため、石田学先生お一人ということになりました。石田先生の二度の講演は、大変タイムリーな内容であり、質疑応答の時間にも、時間を延長して丁

寧に対応してくださいました。それでも時間が足りないほど「熱い」時間となりました。先生は、「時代を見つめて」というテーマに沿って、午前のセミナーIでは「時代の転換期における教会の使命——社会の構造変化と教会」と題して、世界そして日本で今、どのような構造の変化が起きており、それに教会はどう対応してきたのか、またこれからどのように向かっていくかが語られました。

夜のセミナーIIでは「コロナ禍とそれ以後の教会——教会の宣教と礼拝を考える」と題し、コロナ禍に対して教会がどう対応したか、またコロナ禍によって変わったことは元には戻らない、戻れない中で「オンライン礼拝」のあり方やこれからの「オンライン教会」の可能性についても語られました。

午後には総会があり、新幹事の改選の選挙の投票結果が報告されました。その後、今回は特に条例改正もなかったため、ブレイクアウトルームを利用して4人一組での交わりの時を持ちました。機械的に分けられたため、ご夫婦で同じグループに分けられた方々もありましたが、対面のセミナーではできない、世代をこえた交わりは、時間が足りないほどでした。また総会前後の休憩時間もオンラインを繋いであり、自由な交わりや語り合いに利用しておられる方々もありました。なお新幹事の役割分担や「若干

名」の選出は、通常ですと会期中に決まるのですが、今回は対面ではなかったため、日を改めて選出することにしました。



同窓会選挙結果報告 (田辺寿雄)

今回は郵送による事前投票となりました。15日(月)午前に選挙管理委員によって開票作業が行われ、結果、左記の四名が新しい会長並びに幹事として選出されましたので、ご報告いたします。

会長 蔦田直毅師(33期生、イヌマヌエル浜松教会)

幹事 小川宣嗣師(39期生、イヌマヌエル別府教会)

幹事 小坂嘉嗣師(41期生、日本宣教会狭山教会)

幹事 荻野倍弘師(40期生、沼津シオン・キリスト教会)

ご協力をありがとうございました。

教団運営委員会から……

久し振りに対面で

教団の課題を検討

広報 浜田耕三



コロナ感染が幾分、収まりを見せる中、教団運営委員会が11月8～9日にOCC会議室において開催されました。今期、初めての対面による会合となり、これまで以上に議題の検討に時間を割き、また折々に祈りの時間が持たれました。代表より箴言八章1～6節、32～36節が開かれ、この危機的な状況に際して、神様からの知恵をもつてこの群れを導くべきことが語られました。

各地の秋期聖会は、リモートやDVD等も用いながら、恵みのうちに開催することがゆるされる聖名を崇めます。なお引退される先生方が来年以降も増加することが予想される中、国内教会局では兼牧や協力体制など、その対策を模索しています。お祈りください。

世界宣教局より各宣教地、並びに関連団体の報告がなされました。様々な困難を覚える中、現地で労しておられる器方のためにお祈りください。宣教コイン献金は

来年に向けても実施されます。なお、硬貨取扱い手数料等を鑑みつつ、コイン献金の今後については世界宣教局内で検討しています。

教育局より「牧師研修会」の報告とともに、今後に向けての提言も紹介されました。また青少年部では「ビルド」(毎月)、「YSBリトリート」(11月)、「Re」(12月)が開催されます。なお新たに2名が信徒伝道者に認定されました。

聖宣神学院関係では、「同窓会総会・セミナー」(11月)、「西日本ブロック後援会世話人会」(12月)がそれぞれオンラインにて開催されます。

信徒局より、10月に開催された「カナ・フェロシップ」、並びに「全国信徒フォーラム」(11月)についての報告がありました。なお信徒局では同フォーラム終了後に、エリア担当者との相互理解を図りつつ、今後の方針を検討します。

厚生委員会による「ひと足先の未来を考える研修会」が恵みのうちに開催されました。今後、70歳と75歳を迎えられた先生方全員に、この研修会に参加していただくようご案内する予定です。

今回の運営委員会では、人権委員会からの報告、また本年度の補正予算、来年度の一般会計予算と特別会計予算が承認されました。

来年の第77次年会では開会礼拝、議事会、聖会、任命式に加えて、「期別祈り会」、「テーマ別フォーラム」等のセッションも組まれます。年会のため今からお祈りください。

教育局 生涯教育課……

牧師のための研修会 私たちのアイデンティティ 《きよめ》の再確認を

生涯教育課 田辺寿雄

教団創立記念日である10月21日(木)午後秋の牧師研修会をオンラインで開催しました。「私たちのアイデンティティ《きよめ》の再確認を」という全体テーマのもとに、二つの発題がなされました。

まず「きよめを学び直してみませんか」というテーマで葛田順子先生が発題をしてくださいました。私たちのきよめに対する共通理解に、ばらつきが生まれてきているのではないかと。同じことばを使っている意味が違ってきているのではないかと。聖書がなんと言っているかよりも、自分がどう思うのが重要になってしまっていないか。共に学び確認しあう機会が少なすぎたのではないかと、などの問題提起がなされました。そして、変わらないことばの真理とともに、変わり続ける時代の中での伝え方をともに学び続けることが必要であると語られました。

また、小川宣嗣先生の発題「『聖潔の生涯』を再読しよう」では、私たちイムマヌエルのアイデン

ティティは聖と宣にあるという確認から始まり、私たちの聖潔理解の土台となってきた書として、葛田二雄師の「聖潔の生涯」が紹介されました。特に第1講「聖潔の位置と内容」から、私たちが信じる聖潔とは何か、また第8～9講「聖潔を標榜する人々への勧告(上下)」から、私たちが聖潔を伝えていく上でどんなことに注意する必要があるか、本文からの引用を交えて語られました。最後に第一コリント八章二節(新改訳2017と共同訳)から「私たちは聖潔について、知るべきほどのことを、知らねばならないように知っているだろうか」と締めくくられました。

その後、グループに分かれて45分ほどディスカッションの時を持ち、それぞれのグループで活発な意見の交換がなされました。全体で80名を超える出席者でした。

なおこの二つの発題は、教団ホームページで今も視聴することができ、興味のある方はぜひご覧ください。

生涯学習課ではここ数年、神学院を卒業して7年以内の先生方を対象とした若手牧師研修会を継続して開催してきましたが、今回は全牧師(有志)を対象とした研修会を開催することができ、心から感謝しています。引き続き、様々なテーマ・方法での研修を企画し実施してまいりたいと思います。ご意見やご要望等ございましたら、生涯学習課までお願いいたします。

オンラインで学ぼう！

こんな学びが自宅でできる
いつでも始められます
だれでも参加できます

野田 禎／大津博子

▼聖書講座 使徒の働き紹介

教育局では無料で聖書を学ぶことができ「聖書講座」を教団の教育局のHPに掲載しています。いま開講されているのは「使徒の働き」です。講師は岩上敬人先生、毎回丁寧に解説してくださり、現在13回目。30数回の講義になります。教会、グループ、個人で学べます。個人の信仰、教会の歩みに大切な示唆、励まし、希望を与えてくれる書です。(野田禎)

▼eラーニング「ウェスレーを学ぶ」

10月から展開された藤本満先生のご研究の集大成のようなeラーニング講座。大好評で、海外からもたくさんの方の受講生を迎えました。内容もウェスレーにとどまらず、幅広くとても興味深いものとなっています。(そして楽しい！)

動画もテキストも今までの講座の倍近くあり、そのどれもが手応え十分！一度購入すれば、いつまでもご覧になることができます。今からでも大丈夫ですので、ぜひどうぞ。(問合せ先は大津博子)

国内教会局から

コロナ禍にある教会
降誕の主に心を向け

クリスマスの月を迎えました。コロナ禍にあつて教会も個人も大きな影響を受けた一年だったと思います。その中で働きを進めるに当たり、私たちは2つのことに目を向けていたように思います。一つ目は「現実



的な課題に対応すること(Doing)です。礼拝のネット配信をはじめコロナ前では考えられないような方法にチャレンジしました。二つ目は「教会とは何か、礼拝とは何か(Being)を見つめ直すこと」です。それによって、改めて気づかされ、教えられたことがあり、恵みもいただきました。コロナ禍のクリスマス、

(阪下謙)

■米、ロシアを「信教の自由侵害」国に指定

米国は11月17日、「重大な信教の自由の侵害」に及んでいるとする国のリストにロシアを追加したとAFP通信。米国は、ウクライナ周辺でのロシアの軍事活動や、ベラルーシ・ポーランド国境の移民問題、ロシアによる衛星破壊実験などをめぐりロシア政府と対立している。アントニー・ブリンケン米國務長官は、「組織的、継続的、かつ重大な信教の自由の侵害」への関与または容認が懸念される国として、ロシアや中国、ミャンマー、エリトリア、イラン、北朝鮮、パキスタン、サウジアラビア、タジキスタン、トルクメニスタンの計10カ国を指定したと発表。

國務省は、信教の自由に関する年次報告書の最新版で、ロシア政府が「宗教的少数派の平和な活動を制限するために、過激主義関連法を悪用している」と指摘。宗教団体やNGOからの報告として、

ロシア当局が信仰を理由に取り調べや拘束、投獄、拷問、身体的虐待や所有物の押収に及んでいると記している。

■中東の教会はアフガニスタン難



海外トピックス

民援助に懸念
中東の教会は、自らアフガニスタン抗争の影響に直面する中で、難民を迎え入れることに懸念だ。ヨルダンのザアトリ難民キャンプは、2011年からシリア戦禍

の犠牲者を収容しているが、このところ、アフガニスタンでの抗争を逃れてきた難民も収容、まさに立錐の余地もないほどの密集キャンプになっている。アフガニスタン難民220万人の9割はイランとパキスタンに流入、ほとんどが最終目的地を欧州としている。今夏の米軍アフガニスタン撤退を機に、タリバンが実権を握るに伴い、難民が激増、国境を越えて溢れ出している。この結果、中東一帯が、難民の流入増加へ打つ手がないうまま放置されている。「自分の足だけを頼りに居住地を逃げ出し、隣国へ国境を越えることは、たやすいことではない。道も分からず、どんな障壁があるかも分からない」とヨルダン福音主義協議会のダヴィッド・リハニ議長。「少数集団、特にキリスト者は、国境を越えたとしても、そこでも恐怖にさらされ、人身売買や虐待の対象にされる。その人たちのために祈るばかりだ」と言う。(平瀬聡樹)

読書の

ひろば



新装改訂版

エマオの道で

365日の霊想

デニス・キンロー著

インマヌエル出版事業部
定価三、七四〇円(税込)

*再版の特価販売があります

在庫が尽きてしまつて再刷の希望が寄せられていたのですが、これまで発行していたJHAが都合で出せない状況が続き、足踏みしていました。インマヌエル出版事業部が発行を引き受けることになり、このたび新装改訂版として出すことになりました。

まず表紙が変わりました。宮本信幸兄の爽やかな表紙に親しんで来ましたが、今回は出版事業部から出されているジョン・シーモンズ著『新しい朝に』『主を仰ぐ朝』とシリーズ化し、カバーデザインを統一しました。このシリーズ3冊を三年周期で使っていただけ

ら幸いです。

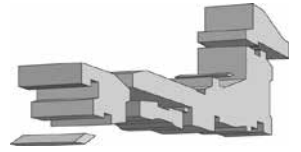
次に、訳文の見直しをしました。回りくどい、あるいは理解しにくいところをより読みやすい文章にしたつもりです。キンロー先生の書き下ろしでなくて、聖会や大学のチャペルの説教を編纂したものですので、背景を含めて訳文に入れないと、?になってしまいます。そのあたりも工夫しました。

シーモンズ先生の本が福音書と使徒の働きを中心に書かれているのに対して、『エマオの道で』は文字通り「聖書全体に書いてあること」をイエスさまに代わって説き明かしてくれます。キンロー先生はアズベリー大学の学長であり、旧約が専門の学者でしたので旧約、特に詩篇が多く取り上げられます。巻末の聖句索引を使うと、気になる聖書箇所やメッセージを読むことができ、とても便利です。

内容についてひとことで言えば、「きよめのメッセージ」そのものです。読んでいると心を探られまじ、明け渡しを迫られます。メッセージを通してきよめを学ぼうと思うなら、これ以上のテキストはないと思います。キンロー先生のかよめ理解の中心にあるのは、イエスさまとどれほど近く生きるかということ。そのためのヒントもたくさん載せられています。すでに以前の版をお持ちの方もおられると思いますが、気持ち新たに読み直すために、新装版はお勧めです。しばらく特価での販売を予定しています。(矢木良雄)



国内教会局 スクエア



西日本ブロックの 近況と祈りの課題

ブロック・アドバイザー

萬田 聡毅

西日本ブロックの為に祈りを賜り、感謝申し上げます。近畿と四国に加えて、本部直轄の沖縄の近況をご報告申し上げます。

今春、王寺と和歌山では転任がありました。姫路・加古川、草津、枚方、豊中、和歌山、香川、糸満は女性牧師お一人で牧会の責任を担っておられます。特にお祈りの中にお覚えください。

姫路と加古川、京都伏見と京都西と徳島、彦根と堺。那覇と東風平は、それぞれ兼牧で続けられていますので、お祈りください。

《近畿教区》

15教会を擁する一番大きな教区です。昨年中止になった関西聖会、今年はオンラインで実施しました。草津11年以上顔を合わせられなかったお互いが心を一つにできるように。彦根11普段は堺の礼拝とライブ中継で繋がり、月に一度は協力牧師と礼拝を守ります。兼牧期間がむしろ益となり、堅立してゆけますように。京都伏見11コロナ禍でもCS生たちが守られるように。京都西11伏見教会との連携で兼牧が保たれています。いのち

近況と祈りの課題

の闇の中にある方が守られますように。高槻11若い方々の信仰がリバイブされ、各家庭が祝されるように。枚方11教区教会と近隣教会の良き助けを頂きつつ着実に前進しています。豊中11CSの継続的な活動が再開しました！大阪伝法11「高チャペちゃんねる」等の新しい伝道の働きが祝されますように。堺1112月に外壁補修塗装工事実施。必要が満たされますように。神戸11今年も多くの愛兄弟を天に送りました。若い兄弟の信仰自立と継承ができますように。加古川11姫路との兼牧で、牧師は車で1時間弱の道程を往来しつつ牧会しています。中止せざるを得なかったクリスマスコンサートに代わる諸集会が祝されるように。姫路11春、夏と新来会者が増えられていますように。王寺11YouTubeを見た新来会者が増えられていて感謝です。高田11愛恵幼稚園の働きもあり、幼児達、教会の御高齢者達がコロナ禍から守られますように。和歌山11会堂の白蟻被害が完全に食い止められ、修復でき、集会に支障なきように。

《四国教区》

ご壮健ですが高齢の先生方が御用に当たっておられます。残念ながら今年の聖会は中止でした。徳島11兼牧のため通常は京都からライブ配信で礼拝を守り、牧師の来訪は月一回。しかし長年離れていた方々が不思議に戻って来られた方々があります。香川11若い兄弟方と子ども達がおられることは感謝です。彼らの信仰の確立と救いのために。今治11普段教会に家族の友人たちが遊びに来るようになりました。彼らが教会学校に繋がりますように。松山11空調設備交換に膨大な費用がかかりそうです。必要が満たされますように。高知1190歳代の三名をはじめ、ご高齢の求道者方が何人もおられ、確かな救いが間に合いますように。

《沖縄地区》

先月沖縄聖会を実施できました。コロナ禍に加え、海底火山噴火の影響から沖縄の海が危機的な状況です。県全体の為に祈り下さい。那覇11今年で開設50周年となり、10月に記念礼拝を行ない、記念誌を編集中です。東風平11那覇との兼牧で、信徒伝道者との協力の許、毎週の礼拝が守られています。開設40周年の記念礼拝を10月に行い、記念誌発行の準備中。糸満11宣言中の活動は縮小されましたが、受洗者が与えられました。来年は故プリンセル師召天3周年記念礼拝、開設40周年記念礼拝、献堂15周年記念礼拝に備えています。記念誌も発行する予定です。



燭台

ポインセチアの実話

救い主のご降誕を喜び祝うクリスマス。月、やりたいことは何でも自由に、とはまだいかなくても、今年できるベストのお祝いができたら、と心から願います。

コンサートや特別集会のプランニング、そのためのご案内や練習は、もちろんクリスマスを迎える準備のメインですが、まず心を込めて教会を飾りつけること、これも大切な準備の一つではないかと思っています。世の中は早々にクリスマス・カラーに彩られますが、何と言っても、もとはこちらなのです。

クリスマス・カラーと言えば、やはり赤と緑。ツリーやリース、様々のオーナメントに加え、ポインセチアの鉢も欠かせません。鮮やかな赤と緑のコントラスト、人間の手では作り出せない色合いの深みと質感は、生だからその力、飾りつけの仕上げに奥行きを与えてくれます。

ところで、ポインセチアがあの鮮やかな赤になるには、条件があるのをご存知でしょうか。日が当たらない暗い時間が十二時間以上ある日が四十日以上続くこと。というわけで、もし自然のままに放っておくと、赤くなるのは年が

明けてからになってしまいます。ですからクリスマス時期に一回ついているものは、九月頃からその条件を人工的に作り出す「短日処理」をしているのだそうです。暗さそのものはあまりうれしくありませんが、その暗さこそがあの鮮やかさを生んでいると知ると、自然の妙、神さまの妙を思います。

私たちはこの二年というもの、コロナという闇の中を歩むことを余儀なくされてきました。それに加えて、気候問題、エネルギー問題、食料問題など、私たちの生活に影を落とす課題は深刻さを増しています。

もちろん闇が取り払われることは、だれもが願うことです。でも、闇だけが生み出すことができる鮮やかな色もある、ということも忘れたくないと思います。暗いことをただただ嘆き、過ぎ去ることだけをひたすら待つのではなく、この闇があるからこそ神さまが与えてくださる深みある彩りと奥行きも必ずあることを信じ、すべてのことを益としてくださる主を信頼して過ごすことができたなら幸いです。はいでしうか。

(萬田順子)

巻頭言

ご自分の民をお救いに

世界宣教局
葛田康毅

広げた翼

Immanuel
His Wings

Department of World Missions

世界宣教局

<http://www.immanuel.or.jp/world/>

先月お届けした宣教ビデオ（DVDやデジタルファイルですが）では、今年も全国の教会と兄弟姉妹の祈りと献金によって、「私たちの宣教地」で「私たちの宣教師」

の働きを通して、宣教の働きがどのように進められてきたかをご覧いただけたと思います。私たちがいっしょに担わせていただいている宣教を、より身近に感じていただけたでしょうか。

宣教の鍵は「愛」であることは疑う余地がありません。その愛とは、いかに「他者の必要を自分のこと」として考え、具体的に行動できるか、ということなのです。宣教地とそこに生きる人々とその必要を知り、そのために祈りの時間や献金が献げられることは、尊い愛の実践にほかなりません。

クリスマスを迎えようとしていますが、聖書は神が御子を遣わされたのは「愛」のためだったと言っています（ヨハネ三・16）。マタイの福音書を見ると、「ご自分の

民」をお救いになるために生まれてくださること（マタイ・21）が、ヨハネの福音書を見ると、その「ご自分の民」に拒絶されることを承知で「ご自分のところ」に来てくださったことが記されています。

神が御子を遣わしてくださったのは、私たちが「ご自分の民」として愛してくださった、その愛によることを頌うことができます。クリスマスに願うべきは「神の愛」こそが、宣教の原動力なのです。

今年行われた東京オリンピックには、205の国と地域が参加したそうです。その中で、私が宣教師として仕えた台湾を含め、「私たちの宣教地」と呼べたのは、全体の1割にも満たない10数か国だけでした。神様は、この205の国と地域のすべて、また、ここに含まれない人々も「ご自分の民」と見てくださっているのです。

宣教は「世界の人々の福音の必要を自分のこととする愛のわざ」だと思えます。どれだけの国や地域の人々を、神の愛をもって「自分の民」として愛せるか、というチャレンジを受け止めるクリスマスでありたいと思います。

*

今日は世界のクリスマス、アジア、アフリカ、ヨーロッパ、南北アメリカ、オーストラリア、どの国でもクリスマス、みんながいっしょに祝いましょ！

（旧教会学校さんびか17番）

10月に入って特筆すべきことは、台南聖教会での初めてのご奉仕が許されたことです。早速9月末に納車となった新しい宣教車を用いる機会が与えられました。ルートによっても変わってきますが、台中から台南聖教会までは高速を使えば、ほぼ150キロ、スムーズにいけば2時間程度で行ける距離です。しかし、最初の奉仕の日はちょうど双十節（10月10日）と呼ばれる連休と重なっていて、往路は台中教会での礼拝を終え、早めに出たものの、礼拝の始まる時間ギリギリに到着することになりました。

前任の平瀬師が帰国される直前に一緒に挨拶に伺って以来、間が空きましたが、主任牧師の高先生はじめ、日本語礼拝担当の川路伝道師、スタッフの方、礼拝参加者の方も温かく迎えてくださり、幸いな礼拝のひと時を持つことが許されました。礼拝後には近くのレストランでの食事にも招いてく



TAIWAN

台湾

久保光彦・せきな*2021年11月7日

ださり、豊かなひと時を過ごすことが許されました。

ちょうど連休が日、月となっており、今回を逃すと次はいつになるかわからないので、家族全員でお伺いしました。家族も台湾入国以来、隔離生活が終わってしばらくしたらすぐに学校や幼稚園が始まってしまい、週日は学校などで忙しく、土日はこちらの奉仕などがあるため、どこかに家族全員で行ってゆっくりする、ということもなく過ごしておりましたので、久しぶりの家族での一泊の遠出にもなりました。そういうわけで家族全員でお伺いすることができ、この機会に台南の皆さんにも家族全員をご紹介することができて感謝でした。

礼拝の次の日は、川路伝道師が案内してくださり、吳園藝文中心という、池や芝生があり、公会堂のような古い建物があるゆっくりにできるところへお連れいただきました。幸いその日はあまり暑くもなく、太陽もそんなに出ていませんでしたので（*台南は熱帯に属するので、太陽が出ているとなかなか表で遊べないくらい暑いので、曇り空がちょうどよい天気なのだから……）、子どもたちは芝生で思う存分にはしゃぎ回っていました。（すぐそばにある付属の施設で、台湾語の研究などで知られているという王育徳という人物の記念館などもあり興味深かったのですが、月曜日は休館日ということでも残念！でした。）

帰り道は連休の戻り日ということもあって、台湾での高速の渋滞を初めて体験することになりました。初めの高速の移動ということもあり、不安な部分もありましたが、守られて台中に戻ることが許されました。これからも台南への出入りは続きます。移動が守られますようにお祈りいただけますと幸いです。



PHILIPPINES

フィリピン

豊田常喜・恭子*2021年11月10日

お祈りいただいていたワクチン接種（1回目）を終えることができました。10月11日、在比大使館より連絡があり、マニラにあるタギグ市でワクチン接種が実施されること、マニラ首都圏周辺の接種会場の設定は困難で、今回が最後になるかもしれないという連絡がありました。妻と相談して、新感染者数がまだ多数のマニラですが、接種のために出かけることにしました。

10月22日、子どもたちを残し、必要書類（通行許可証、問診書、



接種申請書）を携帯し、朝4時に宣教車で出発しました。一年以上振りの3時間以上、高速道路路上、首都圏での運転でしたが、夫婦で1時間ごとに交代して運転し、無事に接種会場のショッピングモールに到着することができました。接種開始時間の2時間以上前の到着でしたが、会場視察のためにモールの6階までエレベーターで上がって行きました。会場はほとんど準備ができていた状態で大使館の方が対応してくださいました。接種開始まで時間があつたので私たちは一旦モールの外に出て朝食を取りました。開始1時間前には朝食を済ませ、会場入りしたところ、ちょうど接種が開始されていたので、問診、登録、接種とスムーズに進み、無事に終わることができました。会場を出たところ、接種の待ち合い座席は埋まっていた。

帰りは、渋滞を避けるために新しく開通した南北ルソンの高速を

結ぶスカイウェイを利用しました。このスカイウェイのおかげで、今まで空港と北ルソン高速道路入口間の渋滞を抜けるのに2時間以上かかっていたのが、20分に短縮されました。これによって、マニラの空港からロサリスまで、2時間半から3時間で移動が可能となりました。これで宣教旅行の旅程も少し快適になりました。



KENYA

ケニア・テヌウェク

薦田就子*2021年11月7日

10月は休日等に日本からのセミナー等に参加できて感謝でした。コロナの影響で滞っていた役所の手続きの一つも、ソティックの町まで出て、無事に済ませる事ができ感謝でした。次回からオンラインですするための指導もしていただきました。ただ、出かけるまでと手続きの工程に時間がかか

り、テヌウェクで行われたスー・ストウリー元宣教師の記念会は、車中で聞きながら帰宅。集中して聞けず、途中で音声が途切れてしまいました。テヌウェク病院のフェイスブックから録画が視聴できるようなので、もう一度じっくり聞かせていただこうと思っています。参列された日本の元ケニア宣教師の方々と拝見できて感謝でした。

10月下旬に夜間外出禁止令が解除されました。そのせいか、8キロ先のボメットの町まで最近出た時に、店員の人のマスク着用率や入口での手洗いやスプレーの励行率が大幅下がってしまっていたのに驚きました。感染率が再上昇してしまわない事を願っています。

ワクチン接種拡大等で、10月は比較的多くの短期ボランティアの方々を迎えました。特に10月の最終週は、他の科とも交渉して連日2部屋を使って、海外からのチームとともに小児心臓外科の手術が集中して行われました。その分、特に心臓外科手術後の回復室に人数を取られ、また、場所を取られてしまったので、新型ウイルス陽性の方の出産のために一部改築してしばらく閉じていた第二回復室を一般手術の患者さんの回復用に開く事になりました。どうか陽性の方とちがいませんように、とドキドキと祈りながらでしたが、一週間守られて感謝でした。患者さんの中には、心停止が5回もあり、ペースメーカー植え込み

手術を後から受けた方もいましたが、回復してよちよちと歩き始めた日の写真と映像が心臓外科チームのワッツアップ（ラインのような携帯電話のソフト）経由で報告され、聖名を崇めました。

10月最後の金曜日、長年経理や清掃で労された二人のスタッフが急に天に帰られた事が報じられ、驚きと悲しみが院内を駆け廻りました。



CAMBODIA

カンボジア

薦田緑乃*2021年10月30日

「もし一つの枝苦しまば、もろもろの枝ともに苦しむ……即ち、汝らはキリストの体にして各自その枝なり。」

（イコリント二・26、27）
最近のカンボジアの宣教情勢を

IWF 宣教師紹介

ブランドン・久芳宣教師



私の名前はブランドン・久芳です。2014年から、日本でご奉仕しています。最初は、東京の大学で学生伝道をしていましたが、今は、下関教会で様々なご奉仕をしています。教会だけではなく、市内の学校でもお仕えています。

2019年は、オハイオクリスチャン大学より、学生チームをお迎えし、バイブルキャンプや地域の学校で、伝道できたことは大きな祝福でした。

パンデミックの中でも、真実な主は、新たな伝道の扉を開いて下さいました。1つは、学校伝道が再開されました。2つ目にギデオンの聖書協会の働きです。これまでに市内の4つの学校に聖書を贈呈をしました。そして、今後の働きのために新たな学びをする準備をしています。

主の御守りと真実さに感謝いたします。これからも、IGMの先生方、皆様と共に主の働きができますこと楽しみにしています。

見つつ、特に皆様方にもお祈りいただいておりますフィリピン人パウロ兄は、無罪の証拠書類全部を無視した最終的審判の宣告で、誰もが驚き、心痛極まる決裁でした。この国と為政者のためのお祈りが地に落とされたかのような思いで、パウロ兄とその婚約者をはじめ、私を含め全関係者が悲しみ、痛みをともしております。

折しもオンライン聖化大会での説教で、ヨセフの生涯が語られており、彼が投獄生活中に通過した様々な苦難の中、「神の視点で物事を見る」信仰を会得するご訓練について語られました。「我がなす事汝いまは知らず、後に悟るべし」と仰せられた主の摂理の道を、パウロ兄も、私自身を含めて世界に散らされている彼のための祷告者たちにも、このご訓練が必要である事を領き、痛みの中に在りつ

つも平安を奪われずに、さらに主の御業にお委ねしております。10月28日の夜、ヴァンディ師との恒例のスカイブートーク（以後ST）が持たれました。2つの事が主の御手のお働きとして報告されました。1つはご実家（在カンボラン州）にご両親と同居中の妹さん、コンチーさんの職場で3人のコロナ感染者発症、感染を恐れたご両親がブノンベンのヴァンディ師の家に滞在せざるを得ず、これまでもお勧めしていたにも関わらず都会生活を嫌って承諾されなかったご両親がしばらくの間滞在されることになり、STでお話しできました。ご高齢のお父様は就寝時間の8時迄というホンの10分だけという条件でお顔を見せてくださいいましたが、結局最後のお祈りの時間を含めると30分の個人伝道の時が与えられ、しかも以前

のSTよりもニコニコ顔で、時には私の言う事が心に入った時は、口を開けてハ、ハ、ハと笑いで濁しておられるご様子に、主が一步步近づいてくださったこと、後は聖霊とヴァンディ師にお委ねすることができました。

そのSTでヴァンディ師の甥御さんが裁判所で働いておられる事、パウロ兄の裁判官とは友人である事、これまでの彼の働く地区がパウロ兄の裁判の地区とは異なるので手が出せなかったのが、今回上訴することによりPP市に問題が移行されるため彼がこの件に手を出せる立場となり、これからの展開に期待しているとのこと。同時に世界中にこの事を広めるためのキャンペーンが行われてアツのキャンペーンが書名を集めております。神様が全ての事態の中に統べ治めておられる事をまたしても領

■会計報告10月分

宣教献金 八六四、〇五五円
月平均 一、七四〇、六五九円



お祈りの課題

台湾（久保）

◆新型コロナウイルスの状況が年末年始、旧正月の期間も抑えられ続けるように

◆クリスチアンの集いが祝され、新しい方々が教会につながっていくように

◆地域の安全・平和が保たれ続けるように

フィリピン（豊田）

◆聖書大学の学生たちと先生たちがオンラインクラスでうまくコミュニケーションが取れ、霊肉ともに守られるように

◆聖書大学で対面授業がもてるように

◆事故、事件、怪我、過ち、災害、病氣、疫病から家族が守られるように。常夏の網膜静脈閉塞症、恭子の甲状腺嚢胞の回復のために香港（鹿島）

◆今年のクリスマスのお喜びが、集人数制限が出されている中でも祝されたものとなるように

◆新来会者の上に求道する心が備えられるように

◆近隣での働きを続けるためには入国ビザが必要です。ビザの取得に主の助けが与えられるように

◆ボーダー隔離政策がなかなか緩和されない中で、香港社会の経済的安定のために

ケニア（鳥田就子）
◆小児心臓外科集中週が守られた感謝

◆亡くなられた2人の女性スタッフのご家族や関係者に慰めがあるように

◆麻酔科、整形外科の働き人（ルカ10の2）が起これ、主任不在期間が守られるように

カンボジア（鳥田緑乃）
◆コロナ禍が治まりつつある中、宣教師の入国許可がいつ許されるかわからない状況です。主の御心の中に宣教活動が再開できるように

◆ヴァンディ師のお父様の信仰の決断がなされるよう、また全御家族の回心のため

◆KCC伝道者、宣教師に救霊の力が必要です。聖霊の特別な御働きがあるように

聖宣神学院報



Immanuel
Bible
Training
College

前に置かれた喜びのために

院長 ● 林 正弘

「この方は、ご自分の前に置かれた喜びのために、辱めをもとせず十字架を忍び、神の御座の右に着座されたのです。」

(ヘブル 一二・二)

今年も神学院を覚えてお祈りとご支援をいただきましたことを心より感謝申し上げます。春にはスタッフの異動があり、神学生はさらに人数が少なくなつて新学年度を迎えました。昨年度に比べて対面での授業が増えましたが、オンラインも活用しながら学びが進められてきました。今後さまざまな変化や課題と取り組みながら営

みが進められていくと思いますが、引き続きお祈りくださいますようお願い申し上げます。

アドベントに入り、年の締めくくりの歩みを進めるとき、改めて人となって地上を歩まれた主の御姿に思いを致します。「御位をも御冠をも捨てて下りましし栄えの主を」と歌いながら、そこに意味されている落差の大きさを考えます。二千年前のパレスチナでの生活は、現代の私たちには「無理」ですが、栄えの主にとってはそれ以上だったはずで、ゲツセマネでの祈りに現された御苦しみ、そして十字架の死は、だれも味わう

ことができないものでした。

私たちが、そのような落差のある状況に飛び込むときは、悲壮感を漂わせるのではないのでしょうか。献身するときそうだったとおっしゃる先生方がおられるかもしれません。しかし私たちの主は、喜びを先に見ながら十字架をも忍ばれました。「悲しみの人」として実際に苦難を味わいつつも、そこには喜びと希望がありました。イザヤの預言では「彼は自分のたましいの激しい苦しみのもとを見て満足する」ともいわれています。私たち一人ひとりが、また神学院が直面している現実も決して簡単なものではありません。しかし主を見上げつつ、喜びと希望と満足を与えられて、みこころの道を進んでいけたらと願っています。



深川教会から清掃奉仕に来てくださった方々

読書エッセー

いいですよ、キャンプ 火を囲む交わりの世界



田辺寿雄

キャンプをする者として、神学院は魅力的な場所です。

まず、敷地内で焚火をしたり、キャンプをすることが出来ます。構内のどこでもというわけにはいきませんが、広い敷地の中で何か所かテントを張ったり、焚火ができるポイントがあります。これはキャンプ好きな者にとっては贅沢なことです。キャンプ場は普通、有料で予約がいりますが、そのような場所へ行かなくてもいいわけです。もちろん山や川があるようなキャンプ場にはありませんが……。

また、ここでは薪が十分にあります。細い木の枝から太めの薪まで、いくらでもあります。引越して間もなく、思い立って斧をネットで注文しました。まだ数回しか使用していませんが、先日久しぶりにその斧を使って薪割りをしました。まだまだ下手くそなのですが、それでもパカーンと真つ二つに薪が割れた時の快感は最高です。ちなみにこのとき11月半ばでしたが、さすが神学院、まだ蚊

がいて刺されてしまいました。

さて、キャンプを始めて、よく人にキャンプの話をするようになりました。キャンプ歴はまだ2年少しで経験も浅く、教えられるような立場でもないのですが、でもキャンプについて話すことは好きです。これは自分にとってちょっと新鮮で、長い間忘れていたような感覚でもありました。話していると、とても楽しいのです。だからだれかに話したくて仕方がない。そしてつい友人をキャンプに誘ってしまいます。「キャンプいいよ。今度いっしょに行こうよ」と。

福音ってそうだったなあと、思い出しました。「伝えるべき」というよりも「伝えたい」「話したくて仕方ない」ものになっているだろうか。「イエスさまって、ほんとに素晴らしいんです。だからぜひいっしょに……」と心から言える自分だろうか。上手に伝えられなくても、全部知っているという思いが溢れるようにして福音を生きる者でありたいと、キャンプを通して思われました。

人をキャンプに誘うとき、その人といっしょに焚火を囲んで座り、楽しく過ごしている場面をイメージします。私とイエスさまの温かな交わりにも、誰かが加わってくれますように。キャンプのように福音も、いつだれが来ても良いように椅子を用意して、温かな火を保っていたいと思います。

◆同窓会セミナーに参加して

神学生の立場で卒業
された先生方と親し
い交わりが持てたこと
は貴重な体験でした

11月16日にオンラインで行われた同窓会セミナーと総会に参加した神学生の感想です。

*

「卒業前の自分が同窓会に参加……？」参加前の率直な問いでした。答えは『この先に、共に励まし合い辛い合える同志の憩いの場が用意されている』でした。何だかいつもよりほっこりとした先生方のお顔につられて私もほっこり前味わいの時となりました。」

*

「今回の同窓会セミナーに参加させていただいて感謝いたします。オンライン化がますます進む中で、教会とは何なのかという本質を理解したうえでオンラインツールを使用したいと考えさせられました。」

*

「牧師同士の『交わり』って大切なことだなと感じました。牧師はだれかと対等な関係で雑談をすることってあまりないかな、と想像しますが、先生方の雑談を聴きながら、話している先生方の『素』

が少し見えたような気がしました。」

*

「神学院で主にあって共に生き、共に学んだ先生方が、世代を超えて集まり、ひと時、再び共に学び、交わる幸いを拝見、また参加させていただき、感謝でした。私にとっても、神学生の今、宝の時となるでしょうか。楽しみです。」



同窓会総会の前日、選挙管理委員の先生方をお迎えしました

同窓会新会長挨拶

33期生 葛田直毅

副会長として6年間、会長が倒れないように祈るのが副会長の務め、と言われてお仕えして参りました。午前のセミナーを終えて解放感に浸っておりますところ



図書館に至る急な外階段に手摺りが取り付けられました



選挙の結果を伺いショックを受けました。けれども10年、20年と黙々と幹事の荷を担ってくださった諸先生方を前にして、何も申し上げることはなく、ただ謙って選挙の結果をお受けした次第です。

一期が6年間ですので、任期が終わる時には古希を迎えることになりませんが、皆様のお祈りと主の恵みに支えられて、務めを全うできれば幸いです。

極度の貧しさの中で聖徒たちを支える「交わりの恵み（新改訳第三版 英訳では「交わりと恵み」）に与る特権を与えられたことを感謝しつつ。

神学院スタッフ…恵みの想起

2021年の恵みと感謝

経理課 渡辺真理

この年を振り返る時、多くの恵みを頂きました。

①コロナ禍のキャンパスの変化……昨年比べて対面授業が増え、教室から神学生の声が聞こえるようになりました。敷地内での対話が増えました。神学生が仲良く会話する姿を見るだけで、私は励まされます。②新しい発見……自然豊かなキャンパスですが、今年初めて、ゆずの木の場所を教えていただきました。また雑草だと思っていた所から、さつまいもが取れてビックリしました。敷地内の草木花や作物など、知らないことばかりですが、もう少し自然の恵みに目を配りたいと思います。

当たり前ではない日常を大切にしながら、新しい年に期待したいと思っています。（詩篇一〇三・二）

学苑だより



●11月2日（火）、深川教会有志の方々が来院され、学院構内の清掃のご奉仕をしてくださいました。心から感謝いたします。

●11月11日（木）午後には、秋の教師会がオンラインで開かれ、来年のカリキュラムなどについて話し合われました。

●11月16日（火）に開催された同窓会セミナーには、神学生四名も陪席が許され、卒業生方とお交わりを持つ機会が与えられ感謝でした。

●学務課の馬場満子姉が健康を損ねて入院中です。お祈りください。●12月は17日までクラスが行われ、12月18日から1月10日までが冬期休講となります。日々の学びと訓練のために続けてお祈りください。

●神学院祈り会が、先月からオンライン（Zoom）の形で開かれています。12月は6日（月）午後7時30分からです。

サポーターズ

尊いお献げものに心より感謝申し上げます。10月の会計報告をさせていただきます。

10月分支援実状
〔今年度毎月献金目標〕
¥1,500,000

教会員による
「神学院サポート献金」
¥770,630
教会団体による「神学院献金」
¥422,525
合計 ¥1,193,155
その他の献金（一時・特別）
¥52,000

・振替：00230-0-10138

教育局 青少年部から……

青年一人ひとりとの つながりを大切に



青少年部コーディネーター 吉村和記

私が教団に属する全国の青年たちと関わりを持つようになったのは、2005年に行われた「どつと青山」でソングリーダーを務めた時からでした。その2年後の2007年に第一回とにキャン、翌年の2008年に第一回全国Y Sが開催されています。青年の働きのために心血を注がれた前任のコーディネーターと共に16年ほど私も青年課で働いてきました。

■「つながり」を何よりも大切に
今年からその大切な役割を引き継ぐにあたって、これからの青少年部の働きのために祈って示されたことは「つながりを大切に」ということでした。

①まず、青年たち自身とのつながりです。「青年」という大きな一括りの見方ではなく、人格をもつ大切な「一人の存在」である彼らと接していきたいと思っています。

②次に、その一人ひとりと関わりをもつ青少年部の先生方との繋がり

りです。青少年部は三課、教会学校課（課長＝葛田順子師）、中高生課（課長＝細田師）、青年課（課長＝吉村）からなります。幼い子どもたちが中学生になって「とにキャン」に、次に大学生となって「ビルド（旧YS）」に、そして30代からは「YSB」にという一本の線としての繋がりを夢見ています。そのためには三課の先生がたとえ連携し協力する必要があります。今年の5月に各課長で話し合いの時をもち、課題を共有することができました。今後とも連絡を密に取ってほしいと考えています。

③そして、地域教会との繋がりに祈り、また「とにキャン」「全国YS（現ビルド）」「YSBリトリート」などに自教会の青年の方々をお送りくださり、ありがとうございます。これからも教会に属する青年を安心して送り出して頂ける集いとなるように尽力します。引き続きお祈りくださり、また、お気づきのことがあればご指摘頂ければ感謝です。

■イエス様との繋がりを大切に
青年課の目的はこのことに尽きると考えます。青年一人一人がイエスさまと出会い、生きておられるイエスさまと生涯繋がりが続くことです。そのために、やはり祈ることの大切さを覚えます。青少年部の先生がたとに共に、これまで接して来て心にある青年たち的心を挙げて、祈るひと時がもてな

いかと考えています。その中から、主の召命の声を聞く兄弟が、あるいは教会の建て上げのために尽力する方々が起こされることを期待して祈っていきたいと思っています。

先日、オンラインでしたが、第一回目のとにキャン以来、14年ぶりに参加しました。特に卒業していく青年たちの最後の証しに感動しました。心に火がつけられたあの青年たち一人ひとりが、やがて主のために献身することを夢見て本気で祈っていこうと示されたことでした。

■青少年部の活動報告
教会学校課の働きについては、ぜひ一度、教団のHPをご覧ください。子どもたちを愛する先生がたが、様々と工夫を凝らして取り組んでくださっています。

中高生課では、今年も夏の「とにキャン」（中高生）が大いに祝福されました。

青年課では、ビルド（大学生以上）が、毎月一度、15〜20名ほどの参加者で、出されたテーマに基づいて分かち合っていました。来年1月2月は2回連続でゲストを迎えた特別企画を、三月には2日間のイベントを開催する予定です。YSB（30代・40代）では、6月と11月にリトリートを行いました。PV動画として製作された全国教会の東日本篇・西日本篇は教団HPに残されていますので、どうぞご覧ください。

今後とも、愛する青年のために祈りとご協力をお願いします。

信徒局からのお知らせ

エリア担当者の任命 これからの奉仕と期待



信徒局長 斎藤純雄

「これはあなたがたの戦いではなく、神の戦いである。」
（Ⅱ歴代誌二〇章15節）

教報11月号において、遅れていました信徒局エリア制の担当者の任命が誌上発表されました。昨年度すでに暫定として従来の教区・地区別壮年部・女性部担当者とエリア制の担当者が併記される形で発表になっておりました。新しい総会期に入り、代表を始め教団運営委員会のメンバーが半数以上入れ替わりました。その中で、信徒局エリア制の推進については、特に地方の教会での理解がまだまだ得られておらず、現状のままで強行しても、長い目で見るならば、決して得策ではないという理解が大勢を占めました。

そこで、半年ほどの時間をかけて各地区や教会の声に真摯に耳を傾け、信徒と牧師の率直な質問や要望にできるだけお応えしながら、それに基づいて信徒局のこれから

の働きを進めていくことにいたしました。皆様方からの貴重なご質問やご要望は、信徒局のみならず教団運営委員会で共有し、共通理解を深めていきます。こうしたことはB Aの先生方を通して、皆様方にお伝えすることになります。

このような状況のもと、11月23日の信徒フォーラム開催が近づく中で、国内教会局の協力をいただきながら、各地区から信徒代議員を軸としてエリア運営委員の推薦者を挙げていただきました。東日本以外のエリアでは、信徒担当者の十分な数に達しませんでした。各教区・地区から信徒が牧師が一人は立てるように調整を加えつつ、何とか今回の任命に至りました。皆様のご理解、ご協力に心から感謝いたします。

これからのエリア担当者の皆様の活動についてですが、まず信徒フォーラムへの積極的参加と協力を仰ぎ、終了後、あまり日にちを置かないで、全国信徒局エリア担当者連絡協議会をNOOJで開催いたします。

初回ですので、先ず顔合わせと今後の信徒フォーラムとエリア協議会の持ち方、信徒局・エリア担当者で地方教会信徒・牧師との相互理解と協働体制の推進のための様々な手段と具体化などを中心に、交流と協議の場を持ちます。そして、今後の信徒局の在り方と活動の方針を決定するための大切な組織として、主によって貴く用いられますことを願っております。

公報

本部通達

2021年 祝 降誕節

「……その名はインマヌエルと呼ばれる。」それは、訳すと「神が私たちとともにおられる」という意味である。

(マタイの福音書1章23節)

先月末からアドベントに入りクリスマスに向かっていきます。各教会では新型コロナウイルスの感染の推移に注意しながら、クリスマスの準備を進めておられることでしょうか。みことばの約束の中に、この時も神がともにおられることを覚えつつ、救い主を待ち望みましょう。主イエスを迎える喜びがすべての教会に満ちあふれますよう祈ります。

■本部

例年全国の教会では、「クリスマス・下半期感謝献金」を実施されます。主への感謝、働き人への感謝を表すための献金に、愛兄弟姉妹のご協力をいただきたくよろしくお願い申し上げます。

【牧師・会計担当者へお願い】

教会年度の区切りを迎えますが、各教会は通常会計だけでなく、会堂会計、予備会計などの特別会計の会計処理を明確にして、1月に持たれる教会総会に備えましょう。

なお、年報など新年度事務報告書類一式を、12月7日付で本部から発送いたします。提出期限は来

年1月18日(火)となっておりますので、遅れないようにご協力を願います。

来年から月例教財勢報告書の教勢報告記載に変更がなされ、会堂内、会堂外(オンライン参加等)を区別した様式となります。

書類の中に、2022年度の「教団主要行事予定表(暫定版)」が含まれています。予定に関して修正や付加の情報がございましたら、本部総務局までお知らせください。年会時に確定版を出す予定です。

〈年末・年始の業務〉

本部 12月21日(火)まで

出版 1月11日(火)から

12月23日(木)まで

1月6日(木)から

本部業務につきましては、11月より基本的に職員は出勤をしております。時間帯は火曜日のみ午後1時〜4時までの勤務となり、その他必要に応じて出回いたします。出版事業部も木曜日の同時帯で業務いたします。

〈新年聖会〉

関東4教区新年聖会は2022年1月10日(月・祝)に岩井基雄師(清瀬福音自由教会牧師)を講師にオンラインで開催されます。

新年の諸教会の対応は地域で異なると思いますが、祈りの内に、新年の良きスタートを切らせていただきますように。

〈第77次年会〉

来年度の年会は2022年3月23日(水)〜24日(木)、今年と同

じくオンライン(YouTubeとZoom)で開催いたします。配信の会場は中目黒教会です。

また、年会分担保金については本部費の半月分をお願いすることになりました。年明けに正式に各教会にご連絡いたします。

■国内教会局

一年の締め括りの月、各教会でも救いの恵みにあずかり、受洗される方が与えられますようお祈り致します。

〈伝道サポートシステム〉

今年も伝道サポートシステムの実施が困難な状況にありました。来年は、少しでも状況が落ち着き伝道の働きが進むことを願っています。計画を立てている教会がありましたら、BAを通して申請をお願いいたします。

〈各集会の教勢〉
来年より月報の礼拝人数の記載が変わります。合計人数とともに会堂内、会堂外の内訳もご報告ください。

■世界宣教局
▽宣教聖日へのご理解とご協力を心から感謝いたします。アンケートにぜひご協力ください。ファックスまたはメールでお送りいただければ感謝です。

▽今回集められた宣教コイン献金は、なるべく今年中にご送金頂ければ感謝です。ご協力ありがとうございます。

▽今後も宣教コイン献金にご協力を。今回お配りした新しいラベルを空き缶などに巻き付けてご使用

ください。

▽運営委員会 12月9日(木)午後1時半〜 来年の予定や方針について話し合う予定です。

IWF関係

▽IWF理事会が11月30日(火)午後、オンラインで開かれました。

▽ホワイト宣教師より、来年の計画のために主の導きがあるようにお祈りください、とのこと。

■教育局

教育局のHPは絶えず更新されています。ぜひご活用ください。

〈教育部・生涯学習課〉

10月21日に行われたきよめをテーマとした牧師研修会発題「私たちのアイデンティティ『きよめ』の再確認を」教育局HPにアップ済みです。

〈教育部・信徒教育課〉
▽信徒向け聖書講座(各教会・個人で自由に視聴可能、無料)内容「使徒の働き」の学び(第12回目まで公開中)

講師Ⅱ岩上敬人師(JEA総主事)
*以前の信徒聖書講座「主の祈り」(担当Ⅱ藤本満師)も第5回までアップ済みです。

〈青少年部・青年課〉
▽YSBプロモーションビデオ第2弾(西日本編)がアップされています。第1弾(東日本編)と合わせて必見です!

▽第2回「R.E.」(旧西日本ブック青年大会)

日時Ⅱ12月12日(日)午後5時〜7時

講師Ⅱ伊藤安司師(深川教会定住

印刷所 埼玉県比企郡鳩山町熊井七〇〇CCビル イムマヌエル綜合伝道団本部

発行人 岩上祝仁 編集者 寺村秀嗣
発行所 東京都千代田区神田駿河台一

伝道師)

テーマⅡ「Rejoice」
▽ビルド(YS)を名称変更)会合Ⅱ毎月1度、テーマを決めてZoomで開催中。

今月の「ビルド」は26日午後19時からです。テーマは「SNS」です。15〜20名程度の方々が参加中。関心のある方は、教会の牧師を通じて窓口(吉村和記師、川村和臣師)にご連絡ください。

〈青少年部・CS課〉
▽クリスマス関連教材も「ふれんず」に用意されています。「きよめ」のみことばも平日毎日更新中です。

▽聖宣神学院
▽神学院祈り会は12月6日(月)午後7時半、Zoomで行います。

▽後援会では、12月11日(土)、南日本ブロック世話人会をオンラインで行います。

▽出版事業部
先月末に『エマオの道』の改訂版が発刊されました。詳細はチラシ等をご覧くださいと思いますが、特別価格となっております。この機会にぜひお求めください。

▽神谷光一師(秋田教会)のお母様、神谷さよ子様は10月23日に召天されました。85歳でした。ご遺族に主の慰めをお祈りいたします。

教報PDFパスワードⅡ7509

新生宣教団 定価 一部110円(税込)
郵便振替 001107133609

新

報

告

告

告

告

告